

平成 30 年 12 月 2 日日曜日に、総合南東北病院北棟 NABE ホールにて～失語症とともに生きる～失語症向け意思疎通支援事業開始へ向けて、をテーマに県民講演会・県民相談会を開催致しました。



阿久津由紀子会長からは、昨年と今年で3名の会員が支援者指導者養成研修を修了したこと、31年度以降の県の方針に従って県士会として事業への協力が行えるよう準備を進めていることなど報告して頂きました。

講演1:「失語症支援における福島県言語聴覚士会の取り組み」
福島県言語聴覚士会 阿久津由紀子 会長

相澤悟委員からは、県内の友の会の成り立ちから現在に至るまでの歴史や各圏域における友の会の取り組みについて報告して頂きました。

講演2「福島県内の失語症友の会の現状とこれから」
一般社団法人福島県言語聴覚士会 失語症関連支援委員
相澤悟 委員



鈴木様からは、失語症意思疎通事業の概要、法的な根拠など事業を進めていく上で、押さえておきたい内容を分かりやすく丁寧に説明して頂きました。

講演3「失語症者向け意思疎通支援事業について」
福島県保健福祉部障がい福祉課 主幹兼副課長 鈴木恵 氏

園田様からは、失語症者の家族の立場や思い、当事者の思い、失語症に関連する各施策、友の会についてなど多岐にわたる内容を、限られた時間の中で凝縮して講演して頂きました。

講演4「失語症のある方々ご家族の現状と日本失語症協議会の活動」
日本失語症協議会副理事長 園田尚美 氏



失語症者の一番の支援者は言語聴覚士
言語聴覚士が一番の師は失語症者
失語症者の先生は、言語聴覚士ではなく、失語症者自身である
言語聴覚士の方々は、失語症者と一生付き合う覚悟が必要

本講演会を通して会員各位においてはコミュニケーション障害に対してどのように言語聴覚士として向き合っていくか、その思いを新たにされたかと思われます。そして当事者、ご家族の皆様へ。県内には254名の言語聴覚士が働いております。言語聴覚士が皆様にとってより身近な存在となるよう、県士会では失語症支援事業に向けた取り組みをすすめてまいります。講師の先生方、参加者の協力のもと短い時間の中でしたが濃密な時間を共有する事ができました。この場を借りて心より御礼申し上げます。当会では毎年県民講演会を開催しております。来年度もより多くの方にご参加頂けるよう研修会や講演会を企画してまいりますので、皆様のご参加をお待ちしております。